

貯法：室温保存

有効期間：3年

承認番号 16100AMZ00047000

販売開始 1986年1月

## 糖類剤

日本薬局方 ブドウ糖

## ブドウ糖「日医工」

## Glucose

## 2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）

〈経口〉

2.1 ブドウ糖吸収不良の患者〔症状が悪化するおそれがある。〕

〈注射〉

2.2 低張性脱水症の患者〔水分の過剰投与により、低張性脱水状態が進行し、症状が悪化するおそれがある。〕

## 3. 組成・性状

## 3.1 組成

販売名	ブドウ糖「日医工」
有効成分	1g中 ブドウ糖 1g

## 3.2 製剤の性状

販売名	ブドウ糖「日医工」
剤形・性状	白色の結晶又は結晶性の粉末 においてはなく、味は甘い。

## 4. 効能又は効果

〈経口〉

経口的栄養補給、ブドウ糖負荷試験

〈注射〉

脱水症特に水欠乏時の水補給、循環虚脱、低血糖時の糖質補給、高カリウム血症、注射剤の溶解稀釈剤、薬物・毒物中毒、心疾患（GIK療法）、肝疾患、その他非経口的に水・エネルギー補給を必要とする場合

## 6. 用法及び用量

効能又は効果	用法及び用量
〈経口〉	
経口的栄養補給	必要量を粉末あるいは水溶液として経口投与する。 なお、年齢、体重により適宜増減する。
ブドウ糖負荷試験	通常成人1回ブドウ糖として50～100gを経口投与する。 なお、年齢、体重により適宜増減する。
〈注射〉	
脱水症特に水欠乏時の水補給、薬物・毒物中毒、肝疾患	通常成人1回5%液500～1,000mLを静脈内注射する。 点滴静注する場合の速度は、ブドウ糖として0.5g/kg/hr以下とすること。 なお、年齢、症状により適宜増減する。
循環虚脱、低血糖時の糖質補給、高カリウム血症、心疾患（GIK療法）、その他非経口的に水・エネルギー補給を必要とする場合	通常成人1回10～50%液20～500mLを静脈内注射する。 点滴静注する場合の速度は、ブドウ糖として0.5g/kg/hr以下とすること。 なお、年齢、症状により適宜増減する。
注射剤の溶解稀釈剤	適量を用いる。 なお、年齢、症状により適宜増減する。

## 9. 特定の背景を有する患者に関する注意

## 9.1 合併症・既往歴等のある患者

〈用法共通〉

## 9.1.1 カリウム欠乏傾向のある患者

ブドウ糖の投与によりカリウムが細胞内に移行し、一時的に血清カリウム値が低下し、症状が悪化するおそれがある。

## 9.1.2 糖尿病の患者

高血糖を生じ症状が悪化するおそれがある。

〈注射〉

## 9.1.3 尿崩症の患者

適切な水分、電解質管理が必要であり、本剤の投与により電解質等に影響を与え、症状が悪化するおそれがある。

## 9.2 腎機能障害患者

〈注射〉

## 9.2.1 腎不全の患者

水分の過剰投与に陥りやすく、症状が悪化するおそれがある。

## 9.7 小児等

小児等を対象とした臨床試験は実施していない。

## 9.8 高齢者

減量するなど注意すること。一般に生理機能が低下している。

## 11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

## 11.2 その他の副作用

	頻度不明
〈経口〉	
消化器 <sup>注)</sup>	悪心・嘔吐、下痢、腹痛
〈注射〉	
大量・急速投与	電解質喪失

注) 大量を経口投与するとき起こすことがある。

## 14. 適用上の注意

## 14.1 薬剤投与時の注意

〈注射〉

14.1.1 皮下大量投与により血漿中から電解質が移動して循環不全を招くおそれがあるため皮下投与しないこと。

14.1.2 （高張液）血栓静脈炎を起こすことがあるので、慎重に投与すること。

14.1.3 高濃度液投与の急激な中止により低血糖を起こすおそれがある。

## 18. 薬効薬理

## 18.1 作用機序

〈経口〉

18.1.1 経口投与されたブドウ糖は胃腸管より速やかに吸収され、血液中に入り、体内でエネルギー源となり代謝される<sup>1)</sup>。

〈注射〉

18.1.2 10～50%の高張ブドウ糖液を静注すると、血液浸透圧が上昇することにより組織水分が血液中に移動し、利尿作用を示す。また生体内でブドウ糖が代謝されるときにカリウムが消費されるので、高カリウム血症の治療に用いる<sup>2)</sup>。

## 19. 有効成分に関する理化学的知見

一般的名称：ブドウ糖（Glucose）

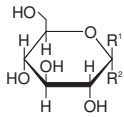
化学名：D-Glucopyranose

分子式：C<sub>6</sub>H<sub>12</sub>O<sub>6</sub>

分子量：180.16

性状：α-D-グルコピラノース、β-D-グルコピラノース又はその混合物である。水に溶けやすく、エタノール（95）に溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

化学構造式：



$\alpha$ -D-グルコピラノース：R<sup>1</sup>=H, R<sup>2</sup>=OH

$\beta$ -D-グルコピラノース：R<sup>1</sup>=OH, R<sup>2</sup>=H

## 20. 取扱い上の注意

開封後は湿気を避けて保存すること。

## 22. 包装

500g [プラスチック袋：バラ]

## 23. 主要文献

1) 第十八改正日本薬局方解説書 廣川書店 2021；C4709-C4714

## 24. 文献請求先及び問い合わせ先

日医工株式会社 お客様サポートセンター  
〒930-8583 富山市総曲輪1丁目6番21  
TEL (0120) 517-215  
FAX (076) 442-8948

## 26. 製造販売業者等

26.1 製造販売元

 **日医工株式会社**  
NICHIKO 富山市総曲輪1丁目6番21